

8 パワーアップ研修報告

商業科教諭 下川床 直 幸

1 目 的

教育公務員特例法第24条の規定並びに「かごしま教員育成指標」及び「鹿児島県教員等研修計画」に基づき、教諭、養護教諭及び栄養教諭に対して、個々の能力や適性等に応じた研修、中堅教諭等としての専門性に関する研修等を実施し、資質の向上を図る。
(実施要項より抜粋)

2 研修期間

令和4年4月～令和5年3月

3 研修課題

生徒の深い学びを実現するための情報機器の効果的な活用の実践と生徒が個人の端末を主体的に利用するための効果的な働きかけの資質・能力の向上

4 課題設定の理由

G I G Aスクール構想の政策により生徒がそれぞれ個人の端末で学習をする環境が整いつつある。この状況下において、教員のICT機器の活用能力向上に留まらず、生徒が主体的に情報端末を利用し、対話的な学びの中で様々な見方・考え方を働かせることで深い学びに繋がられるような働きかけや声かけなどの資質・能力の向上が必要になってくる。また、小中学校から情報端末に触れる機会が多くなり、さらにはプログラミング教育も開始され、そういった生徒が商業高校に入学してくると考えた時、今後の商業教育の在り方についても考えていきたいと考えこの課題を設定した。

5 研修内容

(1) 校内研修

ア 研究授業研修

- | | | | |
|-----|--------------------|---------------|----|
| 1回目 | 指導上の課題を明らかにする授業 | 令和4年5月17日(火) | 実施 |
| 2回目 | 考え方を働かせ深い学びに繋げる授業 | 令和4年12月21日(水) | 実施 |
| 3回目 | 生徒が主体的に情報端末を活用する授業 | 令和5年2月9日(木) | 実施 |

イ 課題研修Ⅰ(4日)

(2) 校外研修

ア 共通研修(2日)

イ 講座選択研修(3日)

ウ 課題研修Ⅱ(5日)

6 研修の成果及び課題

共通研修や講座選択研修を通して、新学習指導要領における観点別評価の方法などについて深く学ぶことができた。また、課題研修では地域の観光資源に触れることができ、授業の題材として利用できると感じた。また、小中学校への訪問では、情報教育の現状について情報交換を行うことができた。まだまだ手探りの部分や課題も多く、小中高で連携し、情報共有や交流を行うことが今後必要になってくると感じた。

研究授業では、ある程度テーマに沿った授業を行うことができ、段階的にICT機器を使用し効果的な授業展開を行うことができた。しかし、生徒のタブレット活用能力についてはまだ不十分であるため、今後、生徒がタブレットを文房具のように日常的に使用し、学習に役立てていく方策を考えていくことが今後の課題となる。

7 研究授業学習指導案

「原価計算」学習指導案

日 時 令和4年5月17日(火) 5時間目
 場 所 管理・教室棟3階 2年3組教室
 対 象 総合ビジネス科 2年3組
 (男子5人 女子15人 計20人)
 指導者 教 諭 下川床 直 幸

- 1 単 元 名 第4章 材料費の計算と記帳
- 2 教 科 書 原価計算 新訂版 (実教出版)
- 3 単 位 数 4単位
- 4 指 導 目 標 (1) 材料費の5分類について理解する。
 (2) 材料を仕入れた時の仕訳、転記の仕方を理解し、記帳できる。
 (3) 材料を消費した時の仕訳、転記の仕方を理解し、記帳できる。
- 5 生徒の実際 元気で明るい生徒が多く、個性豊かなクラスである。学習に対する意欲は高く分からないところを質問し、理解しようとする。しかし、集中力が長続きしないため、説明の時間が多くならないように注意し教え合いや机間指導を多くするなどの工夫や手立てが必要である。
- 6 指 導 計 画 第4章 材料費の計算と記帳 (全8時間)
 - (1) 材料費の分類 } 1時間 (本時)
 - (2) 材料の仕入れと記帳 }
 - (3) 材料の保管と記帳 } 1時間
 - (4) 材料の消費と記帳 }
 - (5) 材料消費高の計算 … 3時間
 - (6) 予定価格法による場合の記帳 … 3時間

7 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
原価の費目別計算について関心を持ち自ら進んで演習に取り組もうとする。また、疑問点については調べたり積極的に質問したりする態度が見られる。	なぜ、予定価格を用いるのか、合理的な記帳法はどのようなものかについて考え、適切に判断・表現して学習を進めている。	材料費の消費高の計算及び記帳に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、各種の金額の計算、仕訳、勘定記入等を的確に行うことができる。	材料費の消費高の計算及び記帳に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。また、予定価格法を用いる理由など合理的な原価計算の考え方を理解している。

- 8 小 単 元 (1) 材料費の分類
(2) 材料の仕入れと記帳
- 9 本時の目標 (1) 材料費を材料の種類によって分類することができる。
(2) 材料を仕入れた時の仕訳と総勘定元帳への転記ができる。

10 本時の展開

過程	時間	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
導入	5分	<p>○前時までの学習内容の確認</p> <p>○本時の学習内容についての説明</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の目標】 材料を仕入れた時の仕訳と転記ができるようになるう！</p> </div>	<p>・前時までの学習内容について、以下のことについて確認し、本時の学習内容につなげる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 原価計算の3つの段階 2. 原価の3要素 <p>・学習内容について理解させる。</p>	<p>・前時までの学習内容を理解しているか。 【知識・理解】</p> <p>・本時の学習内容と活動について理解しているか。 【関心・意欲・態度】</p>
展開	35分	<p>○材料費の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材費と買入部品費との違いを理解する。 ・洋服を例に素材費になるものと買入部品費になるものを考える。 ・燃料費、工場消耗品費、工場消耗器具備品費について理解する。 ・どの分類に該当するか考える。 <p>○材料の仕入れと記帳</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料を買い入れた時の仕訳と転記の仕方について理解する。 <p>○演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題を解く。 ・解答、解説 	<p>・材料の種類による分類について教科書P48を読み、素材費（原料費）と買入部品費について説明し、理解させる。</p> <p>・洋服を例に挙げ、素材費となるものと買入部品費になるものを考えさせ、発表させる。</p> <p>・燃料費・工場消耗品費・消耗工具器具備品費について、教科書P49を読んで説明し理解させる。</p> <p>・いくつか例をあげ、どの分類に該当するか考えさせる。 例) サンドペーパー ニスのこぎり ドライバー</p> <p>・仕訳の解き方と転記の仕方について、教科書P51の例題を使って説明し、理解させる。</p> <p>・材料を買い入れたとき「材料」ではなく「分類名」で仕訳することを理解させる。※「費」は付けない。</p> <p>・机間指導を行う。取り組み状況、理解度を把握した上で、適宜全体への声掛けを行う。</p> <p>・解答解説を行い、生徒の理解を深める。</p>	<p>・素材費と買入部品の違いを考えることができたか。 【思考・判断・表現】</p> <p>・どの分類か主体的に考えることができたか。 【思考・判断・表現】</p> <p>・「材料」ではないことを理解できたか。 【知識・理解】</p> <p>・仕訳を総勘定元帳へ正しく転記できたか。 【知識・理解】 【技能】</p>

終 末	10 分	○本時の振り返り ・本時の学習内容について振り返り、プリントに自己評価を行う。	・自己評価を確認して周り、理解できていない生徒へのアドバイスを 行う。	・本時の内容を理解できたか。 【知識・理解】
		○次時の予告 ・材料の保管と消費の記帳について学ぶ。	・材料の保管と消費の記帳について学ぶことを理解させる。	・次時の学習内容を理解できたか。 【関心・意欲・態度】

11 本時の評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
材料費の分類と記帳方法に関心を持ち自ら進んで意欲的に取り組めたか。	材料費の分類について主体的に考えを深めることができたか。	適切な勘定科目を用いて仕訳を行い、それを総勘定元帳（T勘定）へ正しく転記できたか。	材料を買い入れた時の記帳に関する基礎的・基本的な知識を身につけたか。

【学習プリント】

<p>原価計算⑭ 2022/5/17</p> <p>【確認】</p> <p>1. 原価計算の手続き</p> <p style="text-align: center;"> 計算 ⇒ 計算 ⇒ 計算 第1段階 第2段階 第3段階 </p> <p>2. 原価の3要素</p> <p style="text-align: center;"> </p> <p>【本時の目標】</p> <p style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></p> <p>【材料費の分類】</p> <p>○素材費（原料費）・・・ 製品の（ ）となる材料</p> <p>○買入部品費・・・ 外部から（ ）部品。そのまま取り付ける。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 10%;">洋服</td> <td style="width: 40%;">素 材</td> <td style="width: 50%;">買入部品</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table> <p>○燃料費・・・ 石炭・石油などのうち、 （ ）として用いられないもの</p> <p>○工場消耗品費・・・ 製品を製造するために（ ）に用いられるもの</p> <p>○消耗工具器具備品費・・・ 耐用年数が（ ）のもの 金額が比較的低いもの</p>	洋服	素 材	買入部品				<p>原価計算⑮ 2022/5/17</p> <p>【仕訳と転記】</p> <p>練習問題</p> <p>6月3日 山形商店から素材¥430,000を買い入れ、代金は掛けとした。</p> <p>6月7日 秋田商店から買入部品¥315,000を買い入れ、代金は小切手を振り出して支払った。</p> <p>6月22日 東北商会から工場消耗品¥90,000を買い入れ、代金は掛けとした。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>借 方</td> <td>貸 方</td> </tr> <tr> <td>6月3日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月7日</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6月22日</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">素 材</p> <hr/> <p style="text-align: center;">買 入 部 品</p> <hr/> <p style="text-align: center;">工 場 消 耗 品</p> <hr/> <p>【振り返り】 あてはまるところに○をつけよう！</p> <table style="width: 100%;"> <tr> <td>材料費の分類について</td> <td>理解できた</td> <td>分らない</td> </tr> <tr> <td>材料費の仕訳について</td> <td>理解できた</td> <td>分らない</td> </tr> <tr> <td>材料費の転記について</td> <td>理解できた</td> <td>分らない</td> </tr> </table>		借 方	貸 方	6月3日			6月7日			6月22日			材料費の分類について	理解できた	分らない	材料費の仕訳について	理解できた	分らない	材料費の転記について	理解できた	分らない
洋服	素 材	買入部品																										
	借 方	貸 方																										
6月3日																												
6月7日																												
6月22日																												
材料費の分類について	理解できた	分らない																										
材料費の仕訳について	理解できた	分らない																										
材料費の転記について	理解できた	分らない																										

「原価計算」学習指導案

日 時 令和4年12月21日(水) 2時間目
 場 所 管理・教室棟3階 2年3組教室
 対 象 総合ビジネス科 2年3組
 (男子5人 女子15人 計20人)
 指導者 教 諭 下川床 直 幸

- 1 単 元 名 第10章 工程別総合原価計算
- 2 教 科 書 原価計算 新訂版 (実教出版)
- 3 単 位 数 4単位
- 4 指 導 目 標 (1) 工程別総合原価計算の意味と目的、手続きについて理解する。
(2) 工程別総合原価計算の手続きにもとづき記帳ができる。
- 5 生徒の実際 元気で明るい生徒が多く、個性豊かなクラスである。学習に対する意欲の高い生徒とそうでない生徒がいる。一斉授業では、なかなか理解することができない。集中力が長続きしないため、一方的な説明の時間が多くなるように注意し、ペアで考える時間を増やし、机間指導を多くするなどの工夫や手立てを行っている。
- 6 指 導 計 画 第10章 工程別総合原価計算 (全5時間)
- | | | | |
|--------------------------|---|-----|-------|
| (1) 工程別総合原価計算の意味 | } | 1時間 | |
| (2) 工程別総合原価計算の手続きと記帳法 | | | |
| ①工程別に当月製造費用を集計する手続き | } | 3時間 | |
| ②工程別の完成品原価・完成品単価を計算する手続き | | | |
| ③記帳法 | | | 1/3本時 |
| ④半製品がある場合の記帳 | | | … 1時間 |

7 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
工程別総合原価計算について関心を持ち、自分から進んでまとめ、問題演習に取り組もうとする。また、疑問点については粘り強く調べたり、積極的に質問したりする態度が見られる。	なぜ、工程別計算を行うのか考え、どのような計算が必要か適切に判断して他者と話し合いをしながら学習を進めている。	工程別総合原価計算に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、原価計算表・仕訳・勘定記入等を的確に行うことができる。	工程別総合原価計算に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。また、その原価計算の方法の特徴について理解している。

- 8 小 単 元 ② 工程別の完成品原価・完成品単価を計算する手続き

9 本時の目標 (1) 工程別総合原価計算表を作成できる。

10 本時の展開

過程	時間	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
導入	5分	<p>○前時までの学習内容の確認</p> <p>○本時の学習内容についての説明</p> <p>【本時の目標】 手続きを理解し、工程別総合原価計算表を作成しよう。</p>	<p>・前時までの学習内容について確認し、本時の学習内容につなげる。</p> <p>・学習内容について理解させる。</p>	<p>・前時までの学習内容を理解しているか。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>・本時の学習内容と活動について理解しているか。</p> <p>【関心・意欲・態度】</p>
展開	35分	<p>○工程別総合原価計算の手続き</p> <p>・手続きの流れについて理解する。</p> <p>●工程別総合原価計算表の作成</p> <p>○工程個別費</p> <p>・個別費の内容について理解する。</p> <p>○部門共通費の配賦</p> <p>・部門共通費の内容について理解する。</p> <p>・部門共通費の配賦方法について理解する。</p> <p>○補助部門費の配賦</p> <p>・補助部門費の配賦方法について理解する。</p> <p>○月末仕掛品の計算</p> <p>○工程別総合原価計算表を完成する。</p>	<p>・工程別総合原価計算の手続きについて、教科書P167-P168を読み、全体的な手続きの流れを理解させる。</p> <p>・各工程に消費した材料費、労務費、経費の合計であることを理解させる。</p> <p>・補助部門費があることを認識させる。</p> <p>・各工程、補助部門に共通に発生したものであり、配賦基準によって配賦することを理解させる。</p> <p>・工程個別費と部門共通費の補助部門費の合計であることを理解させ、部門共通費と同じように配賦基準によって各工程に配賦することを理解させる。</p> <p>・以前の学習内容を思い出させながら隣同士話し合いをさせ、記入させていく。</p> <p>・第一工程の完成品が第二工程の前工程費になることを理解させる。</p>	<p>・手続きについて理解できたか。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>・3要素の合計であることを理解できたか。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>・共通に発生したものであることを理解し、配賦額の計算ができたか。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>【技能】</p> <p>・配賦方法について理解できたか。</p> <p>【知識・理解】</p> <p>・協力して話し合いながら活動しているか。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>・原価計算表を作成できたか。</p> <p>【技能】</p>

終 末	10 分	○本時の振り返り ・本時の学習内容について振り返り、プリントに自己評価を行う。	・自己評価を確認して周り、理解できていない生徒へのアドバイスを 行う。	・本時の内容を理解できたか。 【知識・理解】
		○次時の予告 ・本時の復習と記帳法について学ぶ。	・次時の学習内容について理解させる。	・次時の学習内容を理解できたか。 【関心・意欲・態度】

11 本時の評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
工程別総合原価計算の手続きについて関心を持ち自ら進んで意欲的に取り組めたか。		与えられた資料をもとに工程別総合原価計算を作成することができたか。	工程別総合原価計算の手続きについて理解できたか。

【学習プリント】

学習用プリント 番 氏名 _____

本時の目標

【練習問題】
次の資料により、工程別総合原価計算表を作成しなさい。

ただし、

- ① 素材は各工程において製造着手のときに投入される。
- ② 加工費は各工程において製造の進行に応じて消費される。
- ③ 月末仕掛品の計算は平均法による。

資 料

a.生産データ

	第1工程		第2工程
月初仕掛品	400 個 (加工進捗度50%)		500 個 (加工進捗度50%)
当月投入	4,100 個		3,500 個
合計	4,500 個		4,000 個
月末仕掛品	500 個 (加工進捗度80%)		600 個 (加工進捗度40%)
完 成 品	4,000 個		3,400 個

b.当月製造費用

① 工程個別費・補助部門費および部門共通費

費 目	工程個別費・補助部門費			部門共通費
	第1工程	第2工程	補助部門	
素材費	¥4,071,000	—	—	—
労務費	¥4,155,000	¥3,025,000	¥354,000	¥780,000
経 費	¥936,000	¥867,000	¥280,000	¥180,000

② 部門共通費を第1工程に45%、第2工程に50%、補助部門に5%の割合で配賦する。
③ 補助部門費を次のとおり配賦する。

第1工程 第2工程

c.月初仕掛品原価

第1工程	¥612,000	(素材費	¥384,000	加工費	¥228,000)
第2工程	¥1,520,000	(前工程費	¥1,160,000	加工費	¥360,000)

2022/12/21

工程別総合原価計算
令和〇年4月分

	第1工程	第2工程
工程個別費		
素材費		
前工程費	—	—
労務費		
経 費		
部門共通費配賦額		
補助部門費配賦額		
当月製造費用		
月末仕掛品原価		
計		
月末仕掛品原価		
工程完成品原価		
工程完成品数量	個	個
工 程 単 価	¥	¥

「原価計算」学習指導案

日 時 令和5年2月9日(木) 2時間目
 場 所 管理・教室棟3階 2年3組教室
 対 象 総合ビジネス科 2年3組
 (男子5人 女子15人 計20人)
 指導者 教 諭 下川床 直 幸

1 単 元 名 第15章 標準原価計算 (その2)

2 教 科 書 原価計算 新訂版 (実教出版)

3 単 位 数 4単位

4 指 導 目 標 (1) 原価差異の計算とその分析方法を理解させる。
 (2) 標準原価計算の記帳方法を理解させる。

5 生徒の実際 元気で明るい生徒が多く、個性豊かなクラスである。集中力が長続きしないため、説明の時間が多くならないように注意し、活動の時間を多くするように心がけている。個別学習、グループ学習など各個人にあった学習方法で理解を深めさせている。

6 指 導 計 画 第15章 標準原価計算 (その2) (全8時間)

(1) 実際原価の計算 (2) 原価差異の計算と分析 ①原価差異の計算 ②原価差異の分析 (3) 標準原価計算の記帳方法(パーシャルプラン) (4) 記帳と分析の例示 (5) 損益計算書の作成	}	1時間
		・ ・ ・ 本時3 / 4時間 ・ ・ ・ 1時間 ・ ・ ・ 1時間

7 単元の評価基準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技 能	知識・理解
標準原価計算を利用した原価情報の活用について関心を持ち、自分から進んでまとめ、問題演習に取り組もうとする。	なぜ、原価標準を設定するのか、差異分析により何がわかるのか、原価管理について理解しようとしている。	標準原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な技術を身につけ、仕訳、勘定記入、損益計算書の作成等を的確に行うことができる。	標準原価計算を利用した原価情報の活用に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。また、標準原価計算に関する基本的な会計理論を理解している。

8 小 単 元 ② 原価差異の分析

9 本時の目標 (1) 各原価差異の計算ができるようになる。

10 本時の展開

過程	時間	学習内容と学習計画	指導上の留意点	評価等
導入	5分	<p>○前時までの学習内容の確認</p> <p>○本時の学習内容についての説明</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【本時の目標】 各原価差異の計算ができるようになるろう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容について確認し、本時の学習内容につなげる。 ・学習内容について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習内容を理解しているか。 【知識・理解】 ・本時の学習内容と活動について理解しているか。 【関心・意欲・態度】
展開	35分	<p>○各原価差異を計算するための流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の流れについて理解する。 <p>○練習問題を解く</p> <p>【STEP1】 当月投入量の計算 (一斉授業)</p> <p>【STEP2】 標準消費数量と標準直接作業時間の計算 (一斉授業)</p> <p>【STEP3】 各差異の計算 (個別学習・グループ学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・材料消費価格差異の計算 ・材料消費数量差異の計算 ・賃率差異の計算 ・作業時間差異の計算 <p>○各原価差異についての確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の流れについてスライドで示しながら、これまでの確認をする。 ・教科書P234の練習問題を解く。 ・材料費と加工費では当月投入量が違うことを理解させる。 ・当月投入量と標準原価カードのどの数値を掛けるか考えさせる。 ・机間指導を行い、考えに躓いている生徒へアドバイスをを行う。 ・生徒に各差異についてワークシートをもとに発表させ、補足を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の流れについて理解できたか。 【知識・理解】 ・当月投入量を計算できたか。 【思考・判断・表現】 ・標準消費数量と標準直接作業時間を計算できたか。 【思考・判断・表現】 ・各原価差異を計算できたか。 【技能】 ・計算方法についてまとめられているか。 【思考・判断・表現】

